

資料室だより 17

Bach, J.S: Orgel chorale der Neumeister-Sammlung (Bärenreiter) ME1/B118/39

このエディションはイエール大学のマニュスクリプト LM4708 のうちバッハの名で伝えられているオルガンのためのコラール・プレリュード 38 曲のうち 35 曲を集めたものです。ここに除外されている 3 曲 (BWV 601, 639, 737) はすでに NBA (新バッハ全集) のシリーズ IV に収録されていますのでそちらで見ることができます。またこの曲集中の 719, 742 は偽作の疑いある作品として暫定期に NBA から除外されています。不完全な形で NBA の IV-3 に収録されている 714 の完全版と、従来オルガンコラールとみなされていなかった (シューミダーの目録ではフーガとされている) 957 がここに収録されています。それ以外はすべて今まで知られていなかった作品ですから、新バッハ全集を補完するものとして極めて重要な楽譜と思われます。

このマニュスクリプト LM4708 はクリストフ・ヴォルフとハンス・ヨアヒムシュルツェの広範な検証によって最近明るみに出されたものです。おそらく 1790 年以降にゴットフリート・ノイマイスターによって編集され、ノイマイスターがクリスチャン・ハイエンリヒ・リンクに譲り、リンクの膨大な蔵書は 1852 年ニロウエル・メーソンによって購われ、1873 年のメーソンの死によりイエール大学に寄贈されたものです。1985 年にイエール大学とバーレンライター社との協力のもとに新バッハ全集の Vorabdruck として出版されています。

Bach, J.S.: Orgelchorale aus der Rudorff-Sammlung (Bärenreiter) ME1/B118/42

これはライプツィヒの市立音楽図書館に Ms.R24 として保管されている手稿譜を初めて演奏用の実用楽譜に校訂したもので、7 曲のオルガンコラールが収録されています。通称ルドルフ・コレクションと言われていますが、このルドルフというのはライプツィヒの音楽教師で作曲家でもあった Ernst Carl Friedrich Rudorff (1840-1916) のことです。彼の祖父の Pistor という人物がフリーデマン・バッハの遺品のオークションでバッハの自筆譜を手に入れました。そして彼の家で親しく出入りしていた若き日のメンデルスゾーンと姉のファニー・ヘンゼルがこれに目を留め、Pistor の蔵書からバッハの作品を分けて 8 つのルーズリーフにまとめ、青いカバーをつけて "J.S. Bach Choralevorspiel, und Figurirte Chorale für die Orgel" と書き込みました。Pistor 家に保管されていたこの写本はやがて音楽家に成長した孫のルドルフに受け継がれ、彼の死後、ライプツィヒの市立図書館に寄贈されてそのまま眠っていたということなのでしょう。

第一曲めの "Herzlich tut mich verlangen" はすでにバッハと親しかった J.P. Kellner の作であるということがわかっています。ノイマイスター・コラールと同様バッハ初期の様式形成研究に光を投げかけるであろうと言われています。 (杉本ゆり)